

(4) 家庭での防火対策について

消防局では、住宅火災による被害を無くすため、住宅用火災警報器の設置指導のほか、住宅防火の推進に努めています。

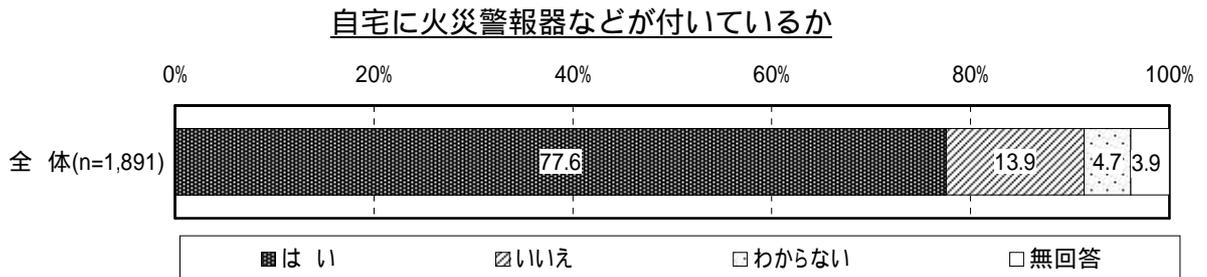
市民の皆様のご家庭内における防火対策状況をうかがい、より多くの方に普段から住宅防火について意識していただけるよう、今後の防火指導に役立てたいと考えています。

自宅に火災警報器などが付いているか

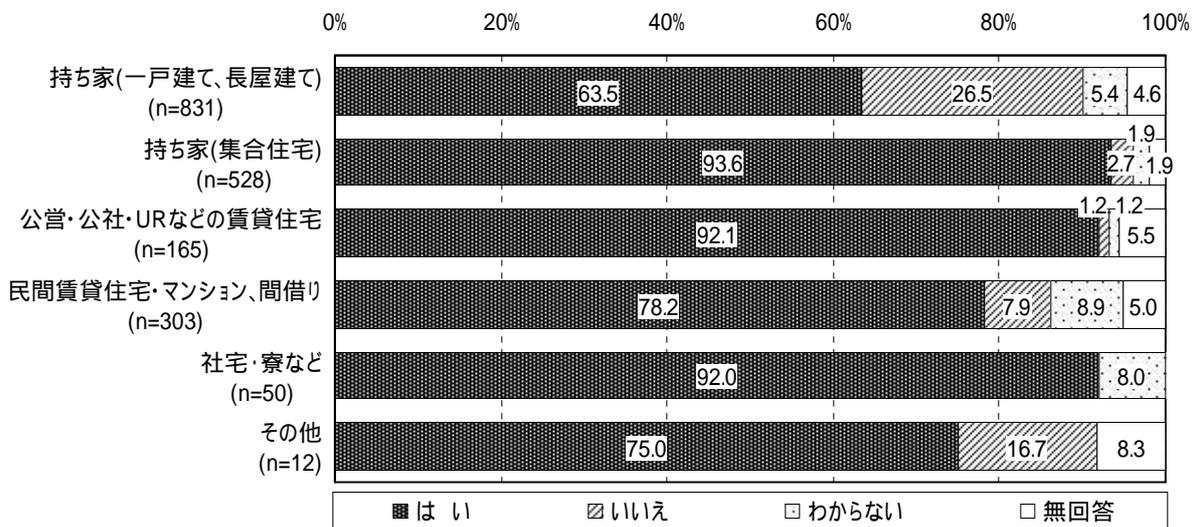
消防法が改正され、すべての住宅に「住宅用火災警報器」の設置が義務化されていますが、あなたのお宅に住宅用火災警報器や自動火災報知設備が付いていますか。
(1つ選んで)

未設置との回答は14%。

- ・「いいえ」とする割合は13.9%、「わからない」とする割合は4.7%である。約3/4の77.6%が「はい」と回答している。



- ・住まいの種別ごとにみると、「いいえ」の割合は、持ち家（一戸建て、長屋建て）が26.5%と高くなっている。

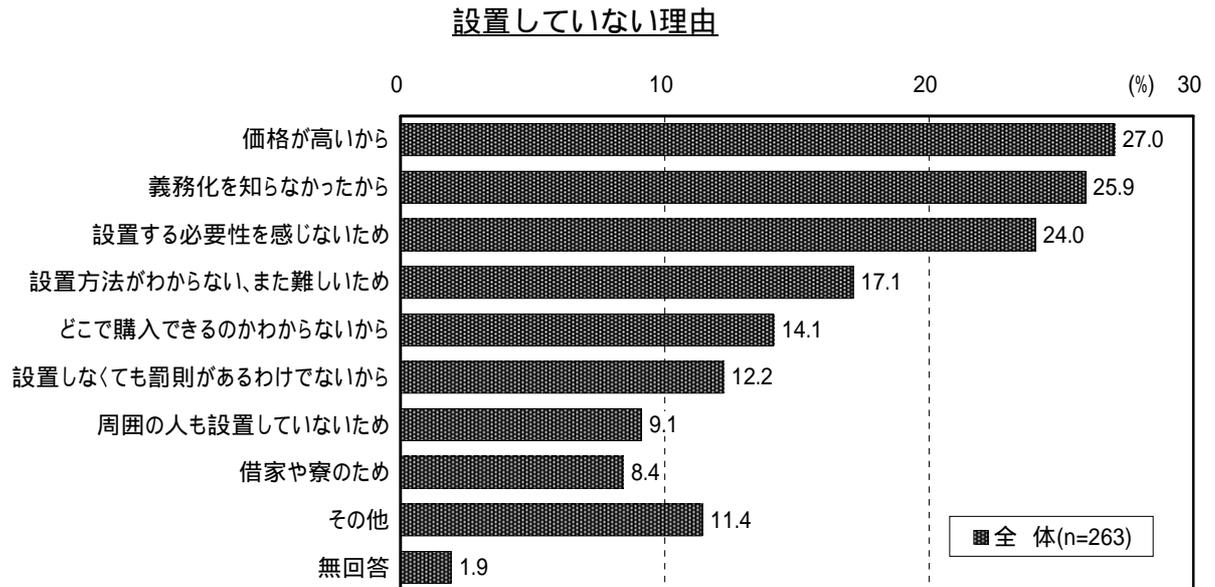


設置していない理由

問21 設置していない理由は何ですか。(あてはまるものをすべて選んで)

「価格が高い」「知らなかった」がいずれも1/4。

- ・設置していない理由の上位3項目は「価格が高いから」(27.0%)、「義務化を知らなかったから」(25.9%)、「設置する必要性を感じないため」(24.0%)となっている。

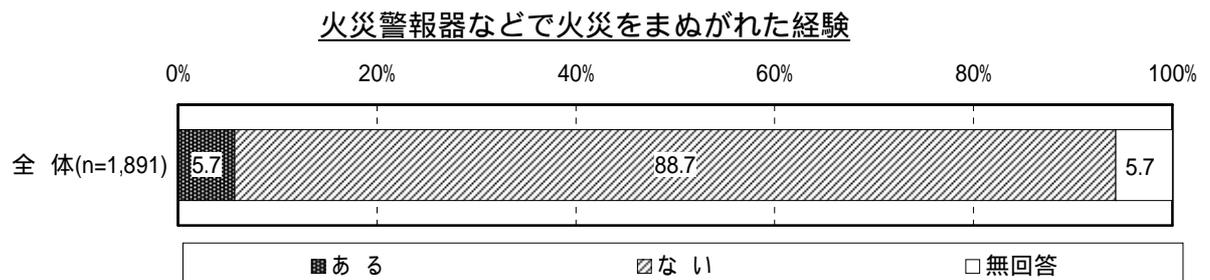


火災警報器などで火災をまぬがれた経験

問22 あなたやあなたの周りで、住宅用火災警報器や自動火災報知設備の鳴動音に気づいたため、火災にならず済んだことがありますか。(1つ選んで)

5.7%が「火災報知機などで火災をまぬがれた」。

- ・機器の鳴動音に気づいたため、火災にならず済んだことが「ある」とするのは5.7%で約20人にひとりの割合である。

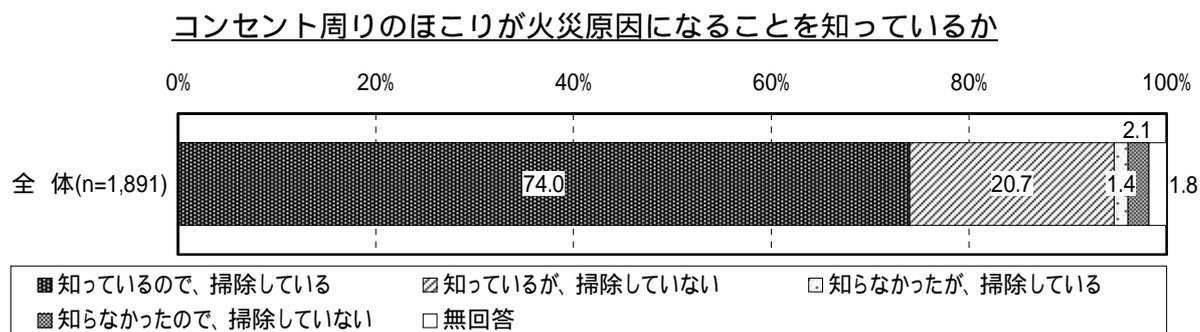


コンセント周りのほこりが火災原因になることを知っているか

問23 電気のコンセント周りのほこりが原因で、火災になる場合があることを知っていますか。(1つ選んで)

95%がトラッキング現象を知っているが、掃除をしているのはその8割。

- ・「知っているので、掃除している」とする割合は74.0%、「知っているが、掃除していない」とするのは20.7%で、ほとんどの人がトラッキング現象*のことを知っている。



*トラッキング現象

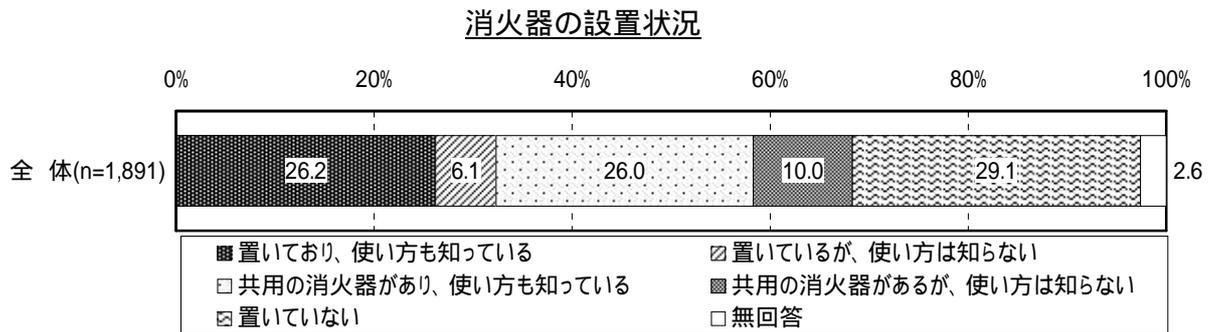
コンセントに電源プラグを長期間差し込んだままにしていると、コンセントとプラグの隙間に、ほこりが溜まり、ほこりと湿気のためにプラグの両極間で通電し火花が発生して、ついには火災に至る現象をいいます。

消火器の設置状況

問24 火災時の初期消火には消火器が有効ですが、消火器を台所などに置いていますか。
 (居住者個人には、消防法上の設置義務はありません)(1つ選んで)

2 / 3 で設置されているが、その 1 / 4 は使い方を知らない。

・「置いている」とする割合は32.3%、「共用の消火器がある」とするの36.0%であり、この合計値は68.3%と、およそ2 / 3 の割合で消火器が設置されている。しかし使い方を「知らない」とするの合計で16.1%にのぼる。



(単位は%)

		設置状況		
		置いている	共用の消火器がある	合計
使い方	知っている	26.2	26.0	52.2
	知らない	6.1	10.0	16.1
	合計	32.3	36.0	68.3

施策に向けての一言 <家庭での防火対策について>

住宅火災は市民生活において重大な脅威の一つである。予防対策並びに被害の最小化に向けて行政と住民がともに注意を払わねばならない。問20は「火災警報器」の設置状況を尋ねている。77.6%が「はい」と答えており、かなり普及していることがわかる。この値をさらに大きくすることが努力目標となるであろう。なお、住まいの種別ごとに「いいえ」の割合を見ると、最も高いのは「持ち家（一戸建て、長屋建て）」となっていることがわかる。ここが今後の火災警報器普及の重要なターゲットであることが示唆されている。

設置していない理由を尋ねた問21の回答分布を確認すると、「価格が高いから」(27.0%)、「義務化を知らなかったから」(25.9%)、「設置する必要性を感じないため」(24.0%)となっている。このうち後ろ2つの項目はより一層の啓発の必要性を示している。

問22は火災警報器で火災を免れた経験について尋ねている。5.7%が「火災報知器などで火災をまぬがれたことがある」と回答している。20人に1人がそういう経験をしているというのは決して低い値ではなく、火災警報器設置の重要性を広報していくことが望ましい。

問23は電気コンセントのほこりが火災原因になること(トラッキング現象)を知っているかどうかを尋ねたものである。これについては約4分の3の74.0%が知っていて掃除もしている。一方、知っていながら掃除をしていないとの回答が20.7%あり、これをあわせると95%の人がトラッキング現象を知っていることになる。知っていながら掃除をしていない層についてさらに情報を集め、広報の対象とすることによって火災発生の可能性を低くすることができるかもしれない。

問24は消火器の設置状況について尋ねたものである。「置いており、使い方も知っている」が26.2%、「共用の消火器があり、使い方も知っている」が26.0%で、約半数の回答者は手近に消火器があり、使い方も理解している。一方、「置いているが、使い方は知らない」(6.1%)、「共用の消火器はあるが、使い方は知らない」(10.0%)という回答もある。このような人たちに消火器の使い方を伝える機会があることが望ましい。古くなった消火器を新しいものに交換する際などが1つのタイミングとして考えられるかもしれない。

(関西学院大学 山田真裕)